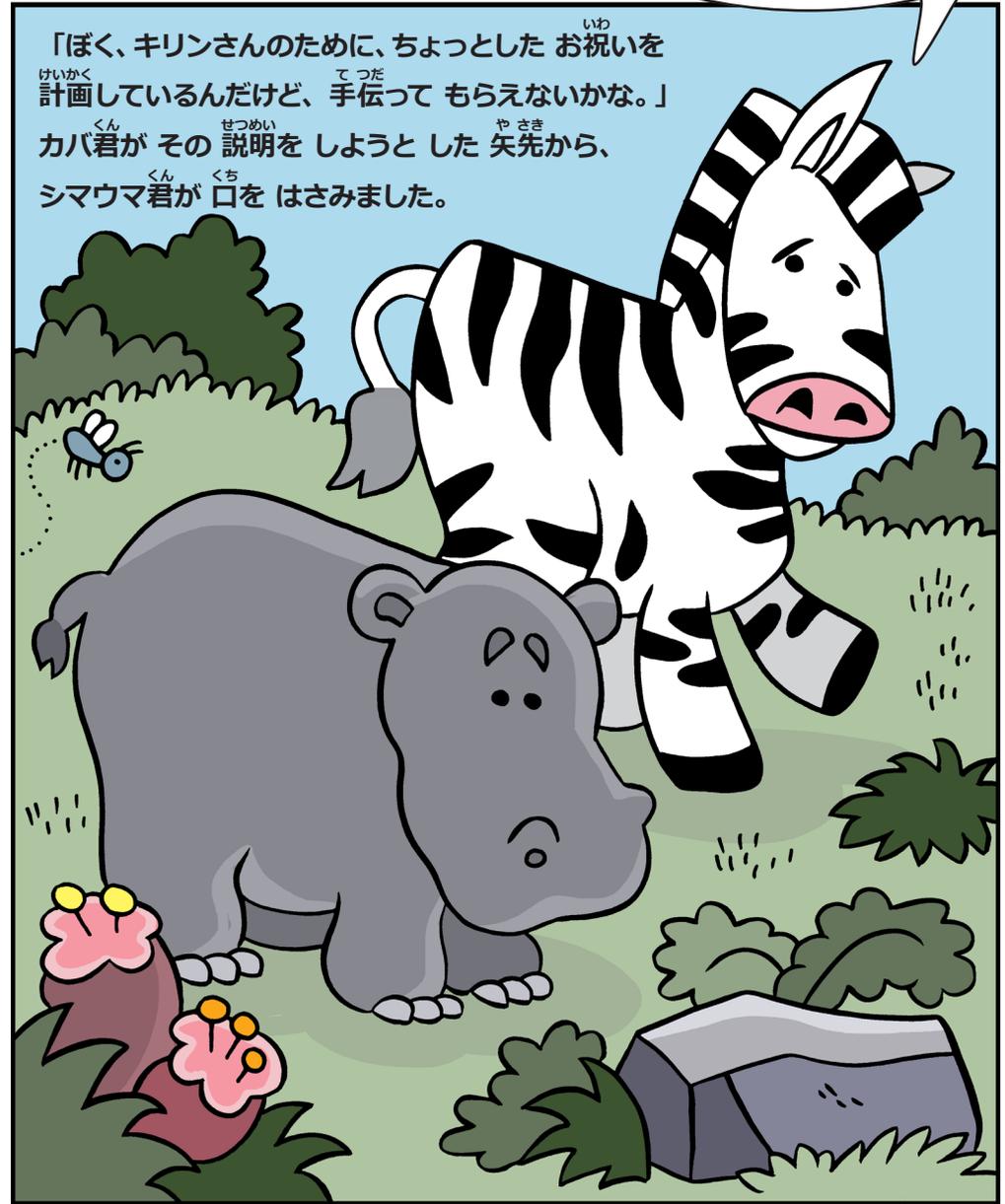


カバ君、キリンさんのために お祝いをする

「お手伝いしたいのは
山々なんだけどね。ぼく、今日は
すごくねむいんだ。」



カバ君は、友だちのガゼルさんに たずねてみる ことにしました。
それで、ガゼルさんが 草を 食べる お気に入りの 場所に行っ
てみました。

ところが、ガゼルさんは 大急ぎです。「わたし、今は 止まらないの！
また 明日ね！ 明日なら 時間があるかも。」 そう
いって、ガゼルさんは カバ君の そばを ビューンと
走り過ぎて 行ってしまいました。

とまらないの！



カバ君は、悲しくなっていました。自分だけで やろうと することも
できませんが、準備が 間に 合うか どうかは 分かりません。

すると その時、ダチョウ君が 通りがかりました。「浮かない 顔して、
どうしたんだい？」と、ダチョウ君が たずねました。

「ああ、ぼくね、
キリンさんのために、
ちょっとした お祝いを
しようと思ったんだけど、
だれも 手伝ってくれなくて…」



すると、ダチョウ君が言いました。「ぼくが手伝ってあげるよ、カバ君。君だって、ぼくがうれた果物を取れるように、あの大きな木にぶつかってゆり落としてくれたじゃないか。それに、キリンさんは、ぼくの友だちでもあるしね。」そう言って、ダチョウ君はカバ君のかたにつばさを回しました。

カバ君はほっとしてほほえみました。そして、計画を説明しました。

その日の午後、キリンさんが歩いていると、友だちの動物たちが何かの周りに集まっています。一体何でしょう？ そう思って、キリンさんがゆっくりと近づいてきました。



そこには枝や石で、「キリンさん、1周年おめでとう!」と書かれていました。そのすぐそばに、キリンさんの大好きな果物や葉っぱの山もありました。



「カバ君が用意してくれたんだよ。」 手伝うのを おっくうがっていた
ことを はじめるかのように、シマウマ君が 言いました。

「ダチョウ君も、手伝っていたわ。」 いそがしすぎて カバ君を
手伝わなかった ガゼルさんも、こうかいしながら 言いました。

「カバ君も、ダチョウ君も、ありがとう。今日は、すてきな
日になったわ!」と、キリンさんが 言いました。

カバ君と ダチョウ君は、おたがいの 背中を ポンポンと
たたきました。お祝い計画は、うまく 이었습니다ね!



文:アリーヤ・スミス 絵:ディディエ・マーティン デザイン:ステファン・ミーラー

出版:マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2016年、ファミリーインターナショナル “Hippo’s Surprise for Giraffe”-Japanese

関連の読み物はこちら ⇒ 親切と礼儀、友情、子供のための物語